

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 4月 28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200312		
法人名	特定非営利活動法人 もちもちの木		
事業所名	グループホーム 古田のおうち		
所在地	〒733-0873 広島市西区古江新町8-32 電話 082-272-2701		
自己評価作成日	平成26年4月18日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=3490200312-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成26年4月30日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

元倉庫だった建物を利用しており、大きな吹き抜けの開放感のあるおうちです。自分の家での普段の暮らしのように生活を楽しんでいます。居室の掃除、食事作り、洗濯物をたたむなど、生活をともにしてもらっています。食事のおかずをバイキング形式にし、種類や量を選んでもらったり、お一人ずつの楽しみ活動を共に企画しています。お蕎麦が好きだったので、お蕎麦屋さんへ食べに行く、花見の季節桜を愛でる外出をするなど。当ホームでは、最後まで過ごしていただけるよう、入所時に話し合い希望に添えるよう体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利便性の良い、住宅街にあるグループホーム古田のおうちは、地域のみんなで創る自分の居場所を実現したいと願い、利用者が地域の中で、その方らしく今までの家庭生活に近い環境で幸せな暮らしができるよう、一人ひとりの希望に添った、外食、演奏会、季節を感じるお花見に出かけるなど、工夫や配慮をしたケアをしています。利用者が安心して、最後まで過ごせるよう、事業者、職員は守っていきたくと、日々理念に基づいた実践がされています。ホームに隣接している地域交流広場では、住民参加型助け合い活動で、地域食堂、出会いの場づくり、ふれあいサロン、パソコン、子育て支援、ひきこもり、若年性認知症などケアアドバイザーをしています。ボランティア精神のもと、みんなが楽しく健やかに暮らせるような様々な活動を展開し地域に溶け込んでいるホームです。

グループホーム 古田のおうち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「優しい心 迷ったり探さぬようそばに在るよ」を理念に掲げ、生活歴やその人らしい暮らしを大切に居場所づくりを実践している。	地域密着型サービスの意識を全員が共有し、その人らしい暮らし、安心できる居場所づくりとなるよう、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	地区社協の常任委員として、会議や活動に参加している。併設の交流スペースでの地域交流サロン(万葉の和、コーラス、子育て支援の乳幼児との触れ合いなど)へは入居者も参加しています。町内会の一員で町会費を払い、回覧板も回しています。	地区社協の常任委員として活動し、交流を図っている。併設の交流サロンでは利用者も参加し、交流がある。町内会の一員で日常的に近隣の方と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターと連携を図り、認知症サポーター養成講座の開催(地域の中学で)や、公民館主催の「おさんぽ、おでかけ、サポーターさぼさぼ養成講座」の参加者中学生10名が当ホームで草抜き掃除の活動をされた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	1回/2ヶ月定期的に開催。前回2/27は消防訓練における住民参加を含めた夜間想定マニュアルを検討した。	運営推進会議は、社会福祉協議会会長、公民館長、古田学区社会福祉協議会会長、民生委員、地域包括支援センター、家族、利用者、理事長、管理者が出席する、ホームの様子は映像で紹介紹介し、出席者から意見や助言を頂く、消防訓練は住民参加しようとの意見が出され、実施することになった。	
5	4	○市町との連携 市町担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	各種報告書、提出書類を持参したり、質問確認事項を問い合わせるなどをして、顔の見える関係作りへ努めている。	地域活動(認知症サポーター養成講座)公民館主催(お散歩、お出かけサポーター養成講座)等の書類、報告書を市役所介護予防課に持って行く。ホームでの取組みを伝え、関係作りに取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2箇所のドアの出入り口の開錠、研修会へ参加し、伝達講習から職員全員への学習理解をしている	拘束について外部研修、事業所研修、伝達講習で全員学習し、理解し、確認を行いながらケアに取り組む拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	学習会、申し送り時の伝達、ミニカンファレンス、定例のカンファレンスで、事例、状態の変化時の対応、情報を共有し、学びを深め、徹底へ努めている。		

グループホーム 古田のおうち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会へ参加、ミニカンファレンスで伝達講習している。制度を利用されている方の後見人への情報共有している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	所定の書類を元に、わかりやすい表現で、質疑応答を繰り返し、理解納得へ努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会の開催、生活歴をお聞きし楽しみ企画を共に考え参加してもらう、面会時日頃の様子を聞いてもらう等で、連携を取って、苦情意見を出しやすいよう努めている。契約の書類へ意見等を出す相談機関を記入している。	思いを言葉で表出しにくい利用者の方もあり、家族が訪問された時、生活歴や要望を聞き、苦情や意見を話しやすい雰囲気作りに努めている。ホームでの様子は全てお伝えし、カンファレンスでは、家族の思いや、意見を反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定例の部会、申し送り時、ミニカンファレンス等で、思いや意見考えを言いやすい時間空間を作っている。個別の時間もとっている。	職員は企画書や回覧板で自由に意見や、気づきを述べ提案することができる。理事長、管理者はそれ等を積極的にとりあげている。個人面談、ミーティング、交流会で意見を出し合う雰囲気作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人の総務担当が、個別で面談し環境を整備している。全体の研修会は4回/開催討議をし、視野を広げている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個別で課題を出し、そのレポートから面談、個人的に定期的な課題の提出を義務づけている職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	行政開催の研修会へ参加、伝達講習で情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>担当者を決め、家族、支援者関係者からの情報を共有し、安心して入居できる体制をとっている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>管理者、担当者と共に情報共有し、安心して入居できる体制をとっている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ケアマネージャーからの在宅でのサービス活用時の情報、在宅での様子、家族の思いを共有し、連携している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>暮らしの中で、本人の思いを尊重した個別の対応をし、共に過ごす時間を作り出している。</p>		
19		<p>○本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族の面会時日頃の様子を知らせ、生活歴をお聞きし、アドバイスを頂いたり、ホームからの提案を出したり、支えていくチームとして力をもらっている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族は買い物ついでに立ち寄り、一緒に昼食をとるなど気軽に一緒に過ごせるように配慮している。</p>	<p>利用者の家族は近くに生まれ、気軽に訪れ、自由に交流できるようにしている。今までの生活の延長であるよう家族、近隣の方、友達と面会があり、つながりが継続出来るよう働きかけている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>食堂のテーブルを囲み、食事やお茶の時間を共にする、ミニ卓球や歌を歌ったり、体操をしたり、共有のスペースで過ごす時間が多。個人ごとの誕生日回も開催し、昼食をお寿司、おやつをケーキにして、お祝いをしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>利用終了後も施設の便りを送るなどして、必要があればいつでも相談や支援ができるような関係を継続している。</p>		

グループホーム 古田のおうち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いを聞き、楽しみ企画を共に作り上げること、ふだんの生活ではパン食の選択、飲み物の選択、衣服の選択等意向を活かす場を作っている。会話が困難な方は視線表情で意向を組み込むよう努めている。	思いや暮らし方の希望、意向を言葉に出せない方もあり、利用者の視点に立ち、生活歴を参考に利用者の価値観を重んじ、良い思い出で暮らしていけるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や趣味、食事のこだわり、親族関係、仕事関係、おしゃれや化粧のこと、ふだんの暮らしに関わることを少しずつでも知り、把握へ努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その日の体調、睡眠の状況をまず把握し、その日の過ごし方、活動歩行、食事、排泄状態を知り、対応を柔軟にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者個人ごとの担当者を中心に、家族の思いを反映する。ひと月ごとに状態をまとめ、モニタリングへ生かしている。	毎月職員は一人ひとりの利用者の意見をくみ取り、コメントを書き、意見を交換し、話し合ったことを家族に伝え、家族からの意見や情報をモニタリングに生かして介護計画が作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録活動時間を記録し、連動した生活へつなげている。勤務交代の引き継ぎ時や介護計画へ活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	当法人は小規模多機能事業を経営しており、ディサービスや地域交流広場を利用から入所の検討事例がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	一人一人の力や思いから、地域交流の集いへ参加し、時間は短いですが、暮らしの楽しみ時間を持つようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所前からのかかりつけ医との馴染みの関係を重視し、ご本人家族の意向をくみ主治医をきめ、往診、家族との受診をし、健康維持へ努めている。緊急時の連絡体制を持つ。	今までのかかりつけ医や希望の医療機関と連携し利用者、家族の安心出来る24時間対応してもらえる主治医を決め、2週間に1回の往診や通院で普段の様子や変化を伝え、訪問看護や夜間の緊急連絡体制ができています。	

グループホーム 古田のおうち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入居者個人の変化、情報を看護職員が把握し、生活上の注意点、内服の管理、主治医、訪問看護師への報告、緊急時の対応、家族への説明対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への訪問、病院関係者との情報交換、退院時は関係者との会議を開催、退院後の生活がスムーズであるよう努める。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合、終末期のあり方について家族とも話し合っており、書面での確認もしている。主治医、訪問看護師とも連携し、その状態時のサイドの確認をし、方針を決め支援している。	入居時、終末期における対応について家族と話し合い、書面での確認している、状況変化があった場合、家族、利用者、医療関係者等と連携を図り、随時確認しながら取り組み、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変の場合は主治医へ連絡指示を受ける。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防夜間想定訓練実施要領を検討、4/25訓練実施する。	年2回の避難訓練を行い春はグループホームのみで、シミュレーションを実施し、秋は夜間想定訓練を近隣の方も参加して行っている。	
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の大先輩である一人一人へ敬意を払い、呼称、言葉使いを丁寧に心がけている。	一人ひとりへ配慮した声掛け、接遇に気をつけ、トイレ、入浴の際はプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	選択の項目を増やし、ささやかな小さいことでも自己決定の思いができるようにしている。視線表情からのくみ取りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事量、トイレ時間、入浴時間、昼寝時間等一人一人のペースを大切に、個別での対応をしている。		

グループホーム 古田のおうち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	更衣時の服の選択、ハンドクリームや化粧品等所有のもので楽しんでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物への同行、皿への盛り付け、台所での食器洗い、じゃがいもの皮をむく、豆の筋を取るなどの準備、片付けを共にしている。	日常生活の営みとして野菜の皮むき等食事作りや後片付け等、楽しみながら行っている。誕生ケーキや、おせち等の行事食を作ったり、バイキングをする事もある。食材は昼、夜2回、購入し、新鮮なものを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録表を活用、一日の量を把握し、摂取確保へ努める。好みの飲み物の提供、手助けをしての摂取、形態の工夫、内容の検討で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、洗面所で、所有の歯ブラシを使い、口腔ケアを実施、個人の力に応じ、見守りや職員の解除で行っている。就寝前は義歯の洗浄も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	記録表から前回のトイレ時間を把握し、次の誘導時間を推測し、決め付けではなく、促しての排泄習慣へ心がけている。	排泄の記録をとり、個別のパターンを把握し声かけをし、気持ちの良い排泄してもらえるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	一日の水分量、食事量を記録表から把握、腹部の自覚症状の訴えも考慮し、腹部マッサージ、医師指示の下剤の服用で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調を見ながら2日/1回、希望にできるだけ沿った時間帯で、入浴を楽しんでもらっている。個別の入浴であり、職員と1対1のコミュニケーションがとれるため、ゆったり時間が取れる。	一人ひとりの希望を聞き、入りたい気分に合わせ2日に1回の入浴でゆっくりと楽しめる。入浴の補助具(木製)で安心した入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	リビングの所定の椅子で過ごされたり、自室で昼寝を取る方等状況に応じて過ごされている。夜間は、口腔ケア、トイレ誘導、尿パッドの交換、体位調整をし、良眠への援助をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医、調剤薬局からの指導を受け処方説明書を保管、服薬の量、回数を確認、看護職員もチェックし、毎回職員の見守りで、服用してもらう。作用副作用の症状変化へ注意している。		

グループホーム 古田のおうち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活の家事全般をその人に応じて、手伝いをしてもらい、役割を全うしてもらっている。個別の楽しみ企画を定期的に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候、体調によるが、希望を聞き、戸外への外出をし、その日の風季節を感じてもらっている。又、個別の楽しみ企画を実施しており、担当職員、家族と共に内容を練、外食、演奏会等時間を作っている。	天候や体調の良い時、散歩に出かけ季節を感じられるよう支援している。一人ひとりの希望による外出もあり外食、演奏会、スーパー銭湯に行かれることもあり、利用者は楽しみにされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個別のお楽しみ企画時の外出時、自らのお財布から金額を出し、店の方へ支払いをされました。その方の力を発揮し、お金を使うしさを支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の意思へを尊重していますが、代筆、取次ぎ、家族へ相談して支援しています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室のドアや入口の床の色の变化、窓の外の花壇創り、グリーンカーテンの風船かつらを育てる等で楽しんでます。リビングの家具を購入しました。	居室のドアや入口は利用者によりやすい配色が施され、新しい共用スペースにはソファやテーブルがあり、倉庫だった建物はゆったりした生活空間がある。リビングでは懐メロが聞こえ、台所では料理の匂いがして、家庭的な温もりを感じる共用空間は、利用者が安心して過ごせる場所です	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングで心地よい時間空間を提供するため、新しい椅子、テーブルの購入、ゆったり雰囲気を作るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具やカーテン、ぬいぐるみ、絵、仏壇等自分好みの部屋を作ってもらっている。	家庭で使われていた家具（三面鏡、机、椅子）仏壇、家族の写真、ぬいぐるみなど思い出の品物を持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すり、アコーディオンパーテーション、つかみやすいドアノブ、バリアフリの床を用い、自立した生活が維持できるよう配慮している。		

グループホーム 古田のおうち

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム 古田のおうち

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム古田のおうち

作成日 平成26年4月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	キャリアパスを導入しているが、研修への意識が低い	個人目標を明確にして意欲を高めていく	面談をおこない目標を具体的な行動になるように支援していく	1年
2	53	ゆったりできる居場所としてリビングを整備したが、十分に活用されていない	利用者一人一人にゆったりとした時間を提供する	職員の業務上の都合を優先することなく利用者のペースに合わせて個別ケアをおこなう	3か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。